

みやぎ 総合

はんことゴム印

震災により、多賀城店は高砂駅向に移転し：
 ■東勝山店 ☎276-1062 ■ルート2
 ■北仙台店 ☎234-7746 ■七北E
 ■愛子店 ☎392-2152 ■名取

住民が分散

集会所流失

自治会ピンチ 3割休止

気仙沼

まちづくり停滞の恐れ



尾崎地区に住んでいた住民と話す尾形修也さん(右)
 —気仙沼市の面瀬中住宅

東日本大震災で被災した気仙沼市で、多くの自治組織が存続の岐路に立たされている。住民の大半が各地の仮設住宅に分散し、活動拠点を失ったことが響いている。コミュニティの崩壊は今後のまちづくりの停滞を招く恐れもあり、専門家は「自治会の再構築が必要だ」と指摘している。

「家も集会所もなく、離れ離れになった。こんな状況でどうやって自治会を再開できようか」と、6月には自治会主催で犠牲者の告別式を開いた尾形修也さん(66)は苦しそうに語る。自治会長を務める尾崎地区は津波で99世帯がすべて流失。住民は市内や一関市の仮設住宅に

「津波で壊滅した古里」に「もう戻れないだろ」と話している。解散は決めてい

「う」と尾形さん。「自治会としての活動ができないうち、会の解散も考えなければならぬ」と話した。

自治会長の小野寺敏夫

「被災地の自治問題に詳しい北海道大学院工学

「津波で壊滅した古里」に「もう戻れないだろ」と話している。解散は決めてい

専門家「再構築へ支援必要」

「一方で、別な形で活動を模索する自治会もある。津波で88世帯の大半が流失した大浦地区は、自治会主導で集団移転の期成同盟会を7月中旬に設立。同盟会顧問には自治会役員も名を連ねる。」